9th Grand Canvas ショートトーク
「説明」はAI品質として管理できるか
-追加アンケート調査の分析-

2026年10月6日
情報処理推進機構
セキュリティセンター
シニアエキスパート
小川　隆一

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

7th Grand Canvasおさらい：AIの信頼性説明調査

- 第１回(2025年7月実施、1600人対象)

  業務AI利用実態、および信頼性説明に対する意識

  1. 業務でAIを利用する回答者の70％がAI利用経験3年未満
  2. 業種・組織規模によらず生成AIは利用
  3. 回答者が説明を求めた要件の一位は「AIの基本知識」
  4. 処理経緯，リスク対応説明の重要性認識に差はない

- 追加調査の必要性
  - 20代回答者の不足
  - AI基本知識への希求の要因　→　AI初心者が多いから？

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

リサーチクエスチョン

1. AI利用者はAIに関する知見の不足から，AIの基本知識を求めるのではないか
2. AI利用者はAIに関する知見の不足から，自らの業務との関係によらず処理経緯・リスク対応いずれの説明も求めるのではないか

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

第2回調査概要

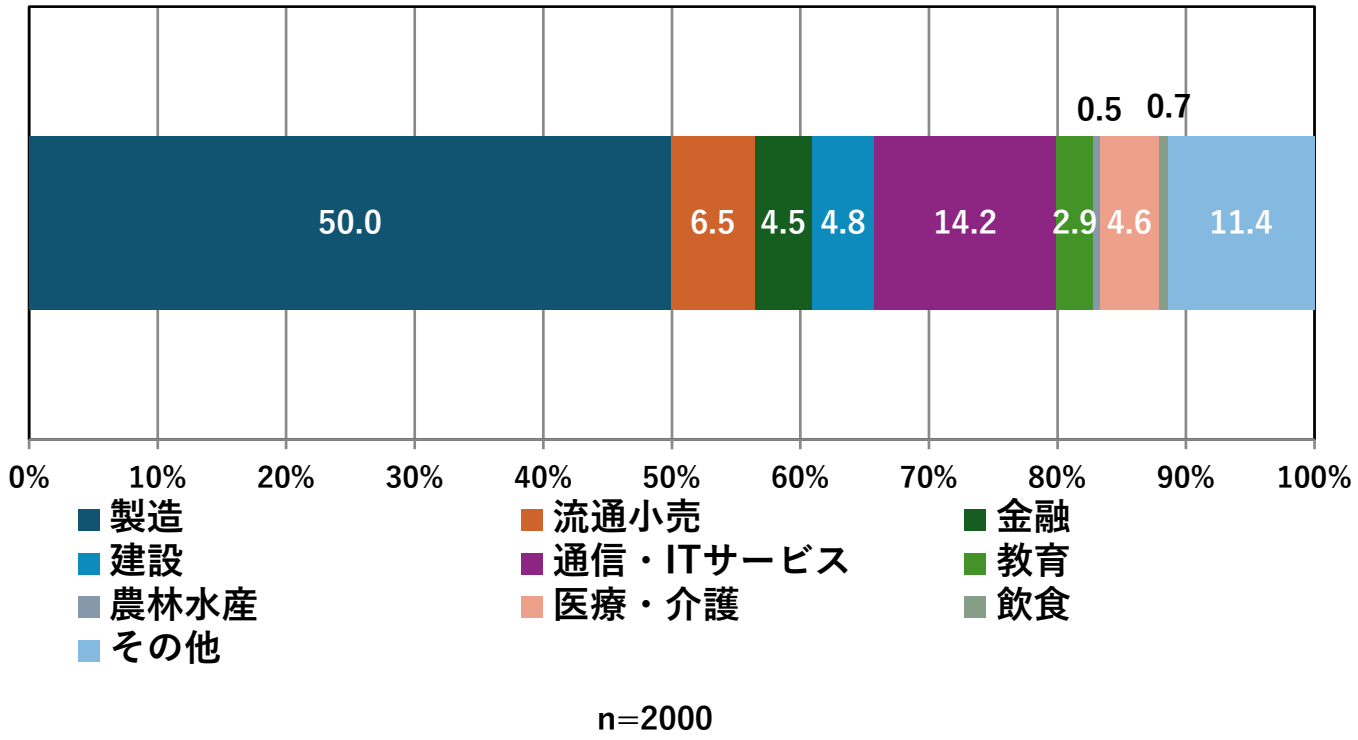
- AIシステムの動作・利用に関する信頼性説明のあり方についての意識調査
- 対象　企業の従業員・経営者・自営業者で、AIを業務で利用する者

  企業規模と業種4象限で各500人　総計2000人

  500人の年齢構成は20代～60代以上まで10年で5分割し各100人
- 形式　　Webアンケート
- 実施時期　2026年3月13日～24日

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

業種別回答者属性



業種	度数	%
製造	1000	50.0
流通小売	130	6.5
金融	90	4.5
建設	96	4.8
通信・ITサービス	284	14.2
教育	58	2.9
農林水産	10	0.5
医療・介護	91	4.6
飲食	13	0.7
その他	228	11.4
集計母数	2000	100.0

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

2. 調査結果サマリ

業務のAI利用

- 前回結果①②③を再確認。 ②については2025年以降利用開始者が30％で急速に増加
  ①生成AI利用が企業規模・業種を問わず広く普及
  ②利用経験3年未満のAI初心者が業務利用の70％超
  ③基本知識説明への要請が大

基本知識説明の要請とAI知識/リテラシーの関係

- 基本知識説明の要請は回答者のAI知識/リテラシー水準と正の相関（知識があるほど基本重視）

20代/業種別の傾向

- 判定（分類）AIの利用で最大の年代別割合、デザイン・ソフトウェア開発の利用も多い
- 誤用・セキュリティ等のリスク説明の重要性認識は他年代よりも低
- 説明への意識が高いと想定される業種では、「介護・医療」回答者の重要性認識が他業種より高

説明の望ましいあり方

- 前回調査に引き続き④⑤⑥を再確認
  ④処理経緯説明とリスク説明が同程度に求められる
  ⑤50％の職場で関係者への説明を実践
  ⑥「AI利用時に自分で要求・参照する」、プレゼン・動画等の異なる媒体、等の形態を希求

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

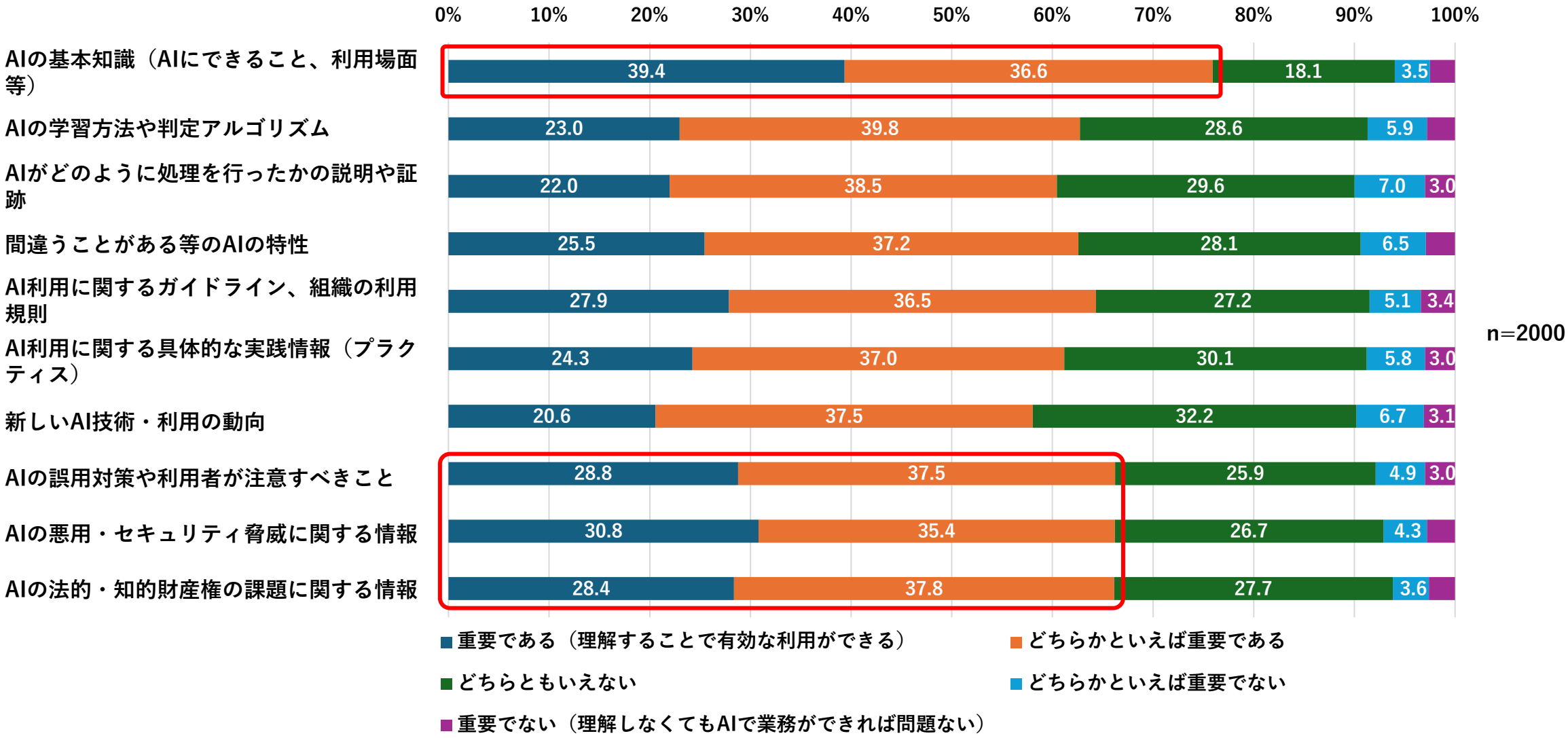
3. 調査結果 重点抜粋（赤字部分）

3-1　AI利用分野と利用頻度
3-2 業務利用のために参照したい情報
3-3 参照情報の重要性認識
3-4 説明の頻度・タイミングに対する意識
3-5 組織における関係者への説明
3-6 組織における説明の課題
3-7 AI知識/リテラシーと説明の認識
3-8 説明の参照環境
3-9 説明用生成AIへのニーズ
3-10 全体を通じた傾向

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

3-3 参照情報の重要性認識

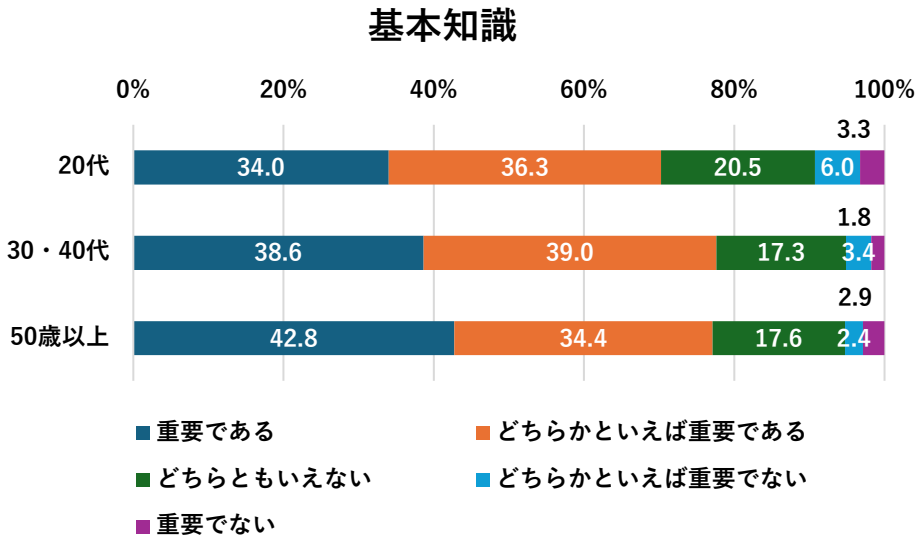
各項目について、もっともあてはまるものを１つだけ選んでください

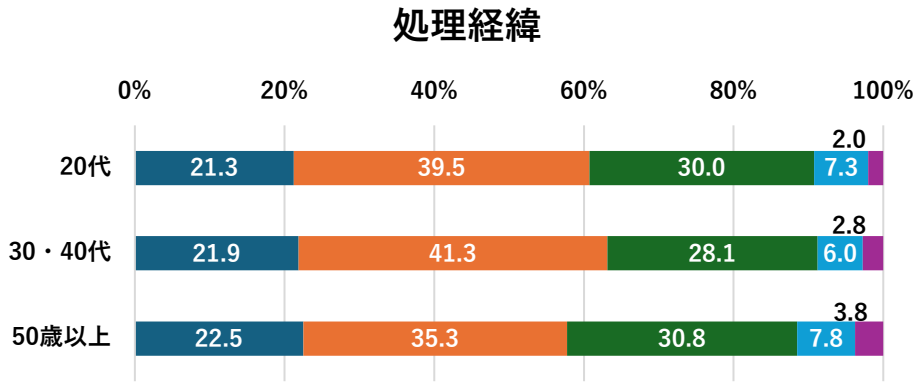


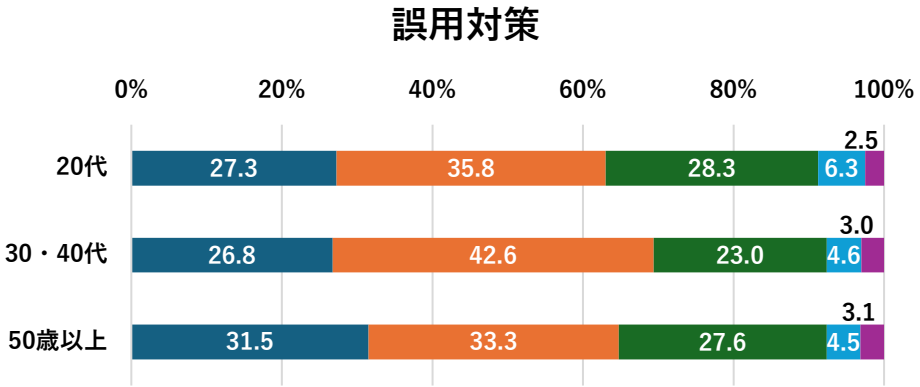
©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

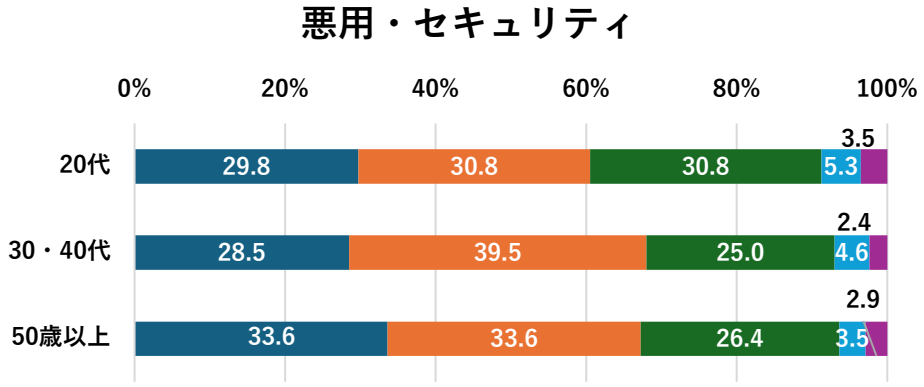
重要性認識の年代特性

「どちらかといえば」までを含めた重要性認識は30～40代がもっとも高いが、大きな差はない。
20代は基本知識、誤用・セキュリティ等のリスク情報の重要性認識が低い。
50代以降は処理経緯（透明性）の重要性認識が低い。





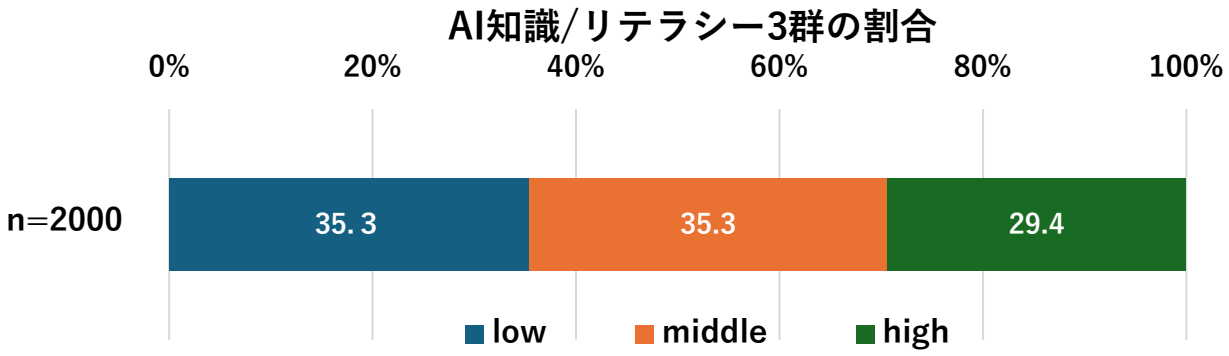


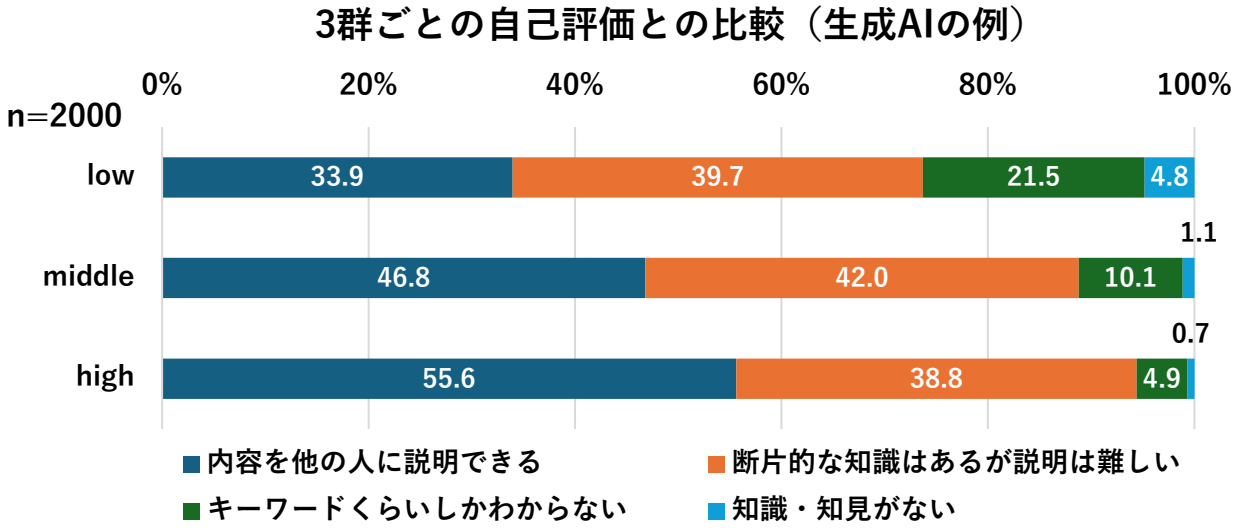


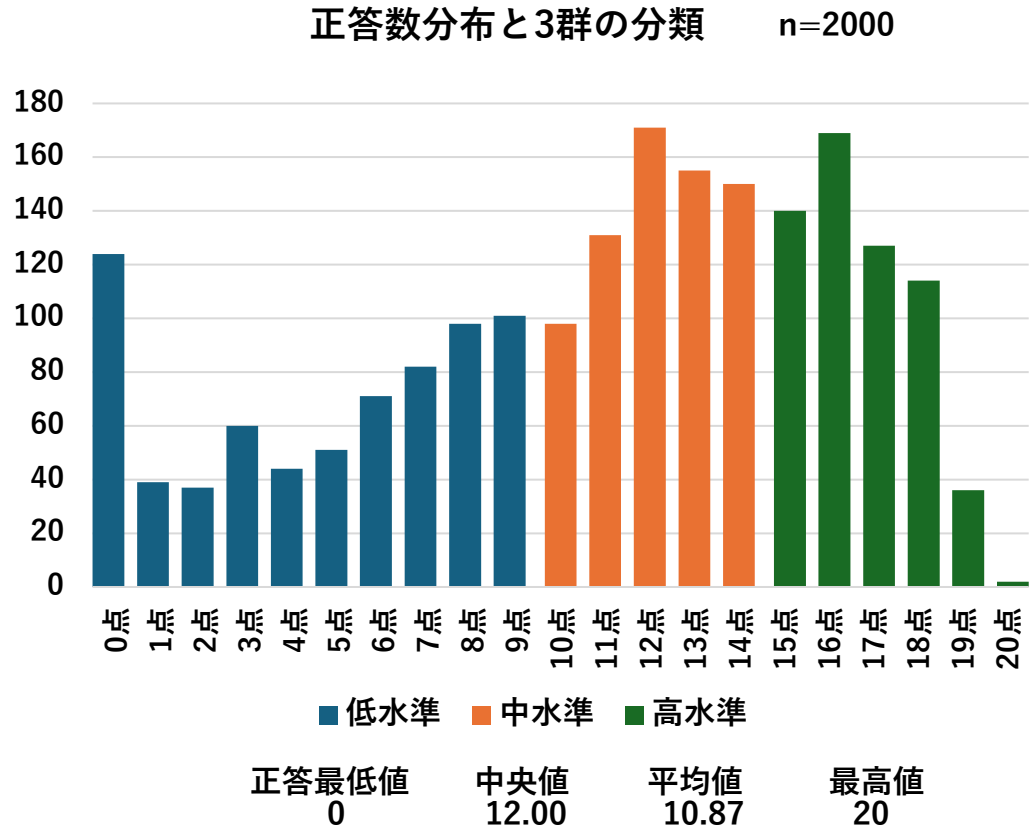
©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

3-7 AI知識/リテラシーと説明の認識

AI知識/リテラシー各10問の正誤質問を提示、正答数で回答者をレベル低・中・高に３分類した。中レベル回答者の自己評価は自己評価全体とほぼ整合している。



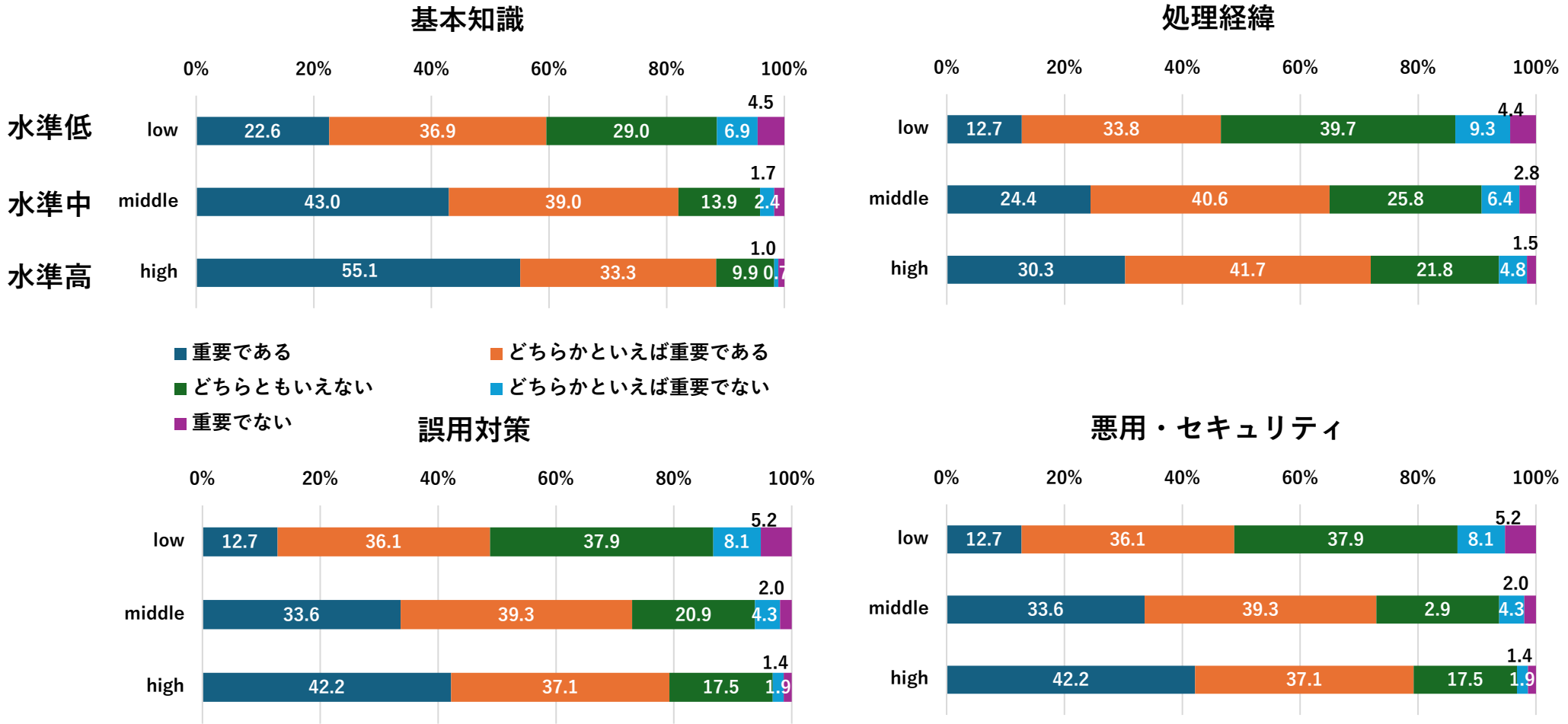




©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

知識/リテラシー水準と説明重要性認識は正の相関

説明情報の重要性認識は知識・リテラシー水準が高いほど大。
基本知識は知識・リテラシーがあっても依然重要と認識される。
誤用・セキュリティ対策として知識・リテラシーレベルの向上が必要と想定。



©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

3-10 全体を通じた傾向

- リサーチクエスチョン１，２は否定された

  知識/リテラシー水準が高い回答者ほど基本知識、経緯説明、リスク説明を重視する

  生成AIの利用は知識/リテラシー水準の高い人は意欲的

- 「AI利用と同じ環境で必要に応じ信頼性説明を参照」への要請が大
- 以下が想定される
  - 知識/リテラシー水準の高い利用者は生成AIを自発的に使い信頼性説明情報を得る
  - 信頼性説明情報参照を高負荷として忌避する利用者（知識/リテラシー低水準）が一定の割合で存在する

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

4. AI基本知識への希求の要因

- 基本知識が重要，という認識の源は「激変するAI技術や利用形態を常に勉強し，アップデートしないとついていけない」という**切迫感ではないか**

- 新たな仮説

  業務AI利用者は，変化が激しいAIの能力・利用状況を常に学び，知識/リテラシーを更新する必要があると感じている

  生成AIに関するリテラシーが向上した利用者は、生成AIを信頼性説明の参照元として業務中に使い始める

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

5. 課題と今後の方向性

- 信頼性説明提供の新たな課題として以下を抽出
  - 高リテラシー利用者へのAIによる説明のあり方
  - 低リテラシー利用者のAI知識/リテラシー向上支援
  - 基本知識の継続的な提供

- 大きな宿題
  - 説明の適切さの評価手法

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）



Thank you !

Please take a look:
IPAテクニカルウォッチ「AIの動作・分析・利用等の説明に関する意識調査」
https://www.ipa.go.jp/security/reports/technicalwatch/20260601.html

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

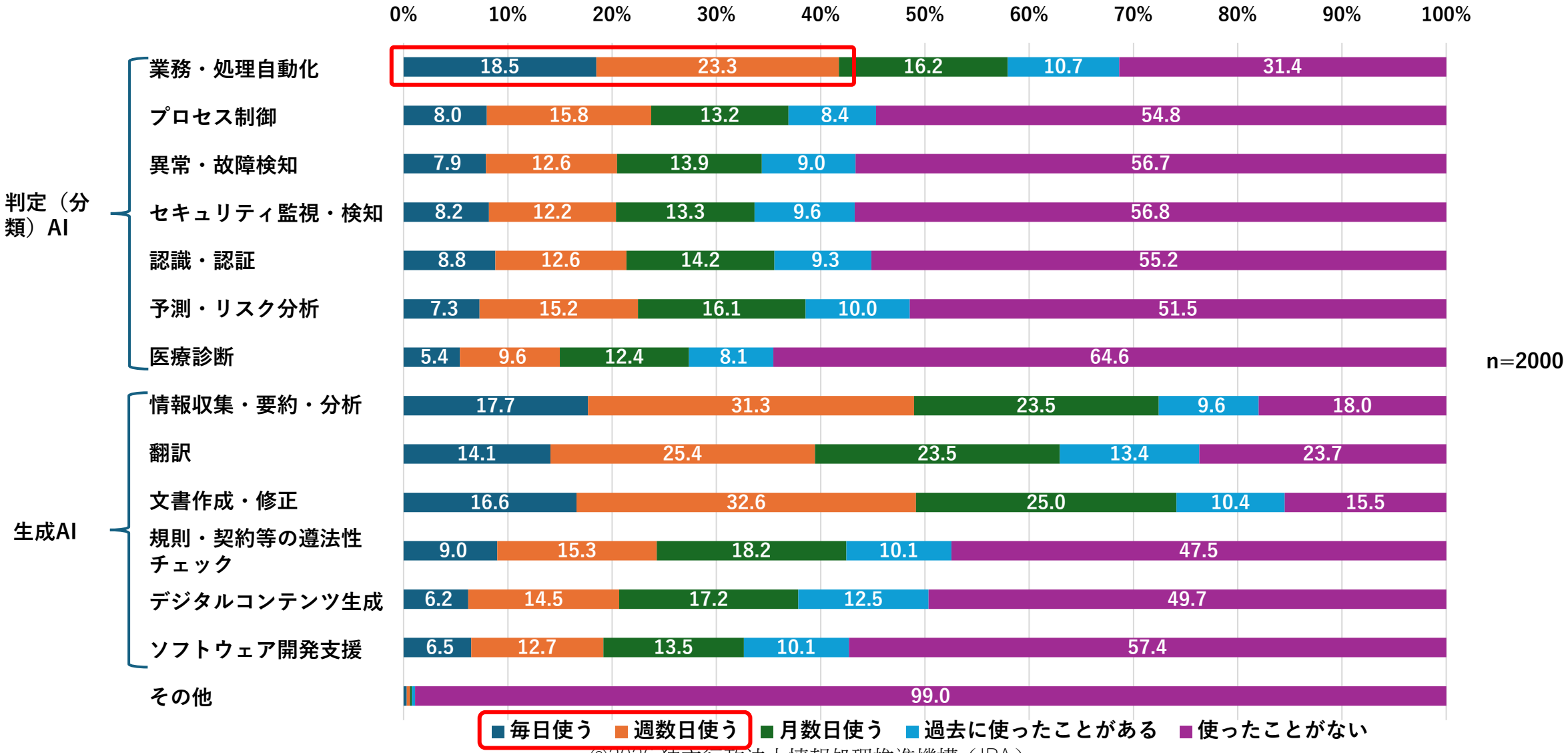
3. 調査結果　補足（赤字部分）

3-1　AI利用分野と利用頻度
3-2 業務利用のために参照したい情報
3-3 参照情報の重要性認識
3-4 説明の頻度・タイミングに対する意識
3-5 組織における関係者への説明
3-6 組織における説明の課題
3-7 AI知識/リテラシーと説明の認識
3-8 説明の参照環境
3-9 説明用生成AIへのニーズ
3-10 全体を通じた傾向

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

3-1 AI利用分野と利用頻度

AIの利用分野と利用頻度について、各項目であてはまるものを1つだけ選んでください

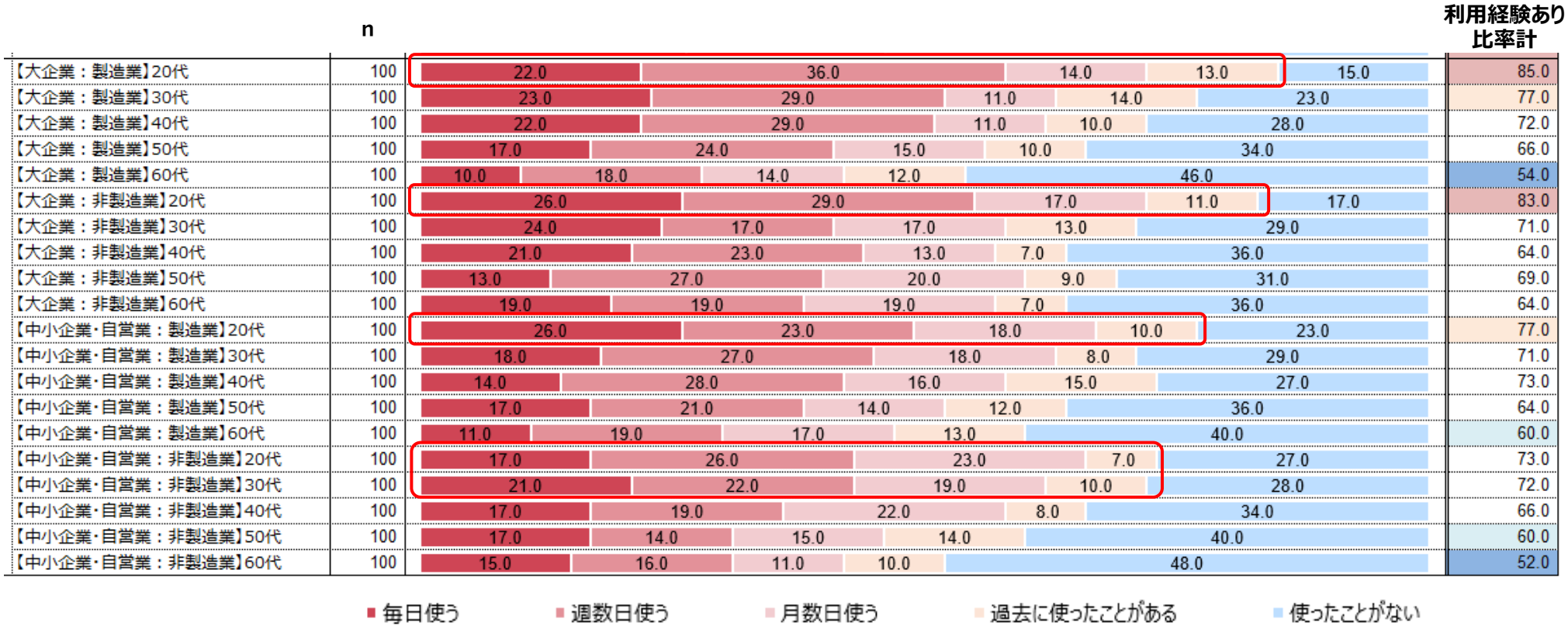


©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

AI利用分野と利用頻度： 年代特性

- 判定（分類）AIの利用は製造・非製造、企業規模をとわず20～40代に集中
- 分類AIは全年代で利用

例：業務・処理自動化の年代別利用頻度

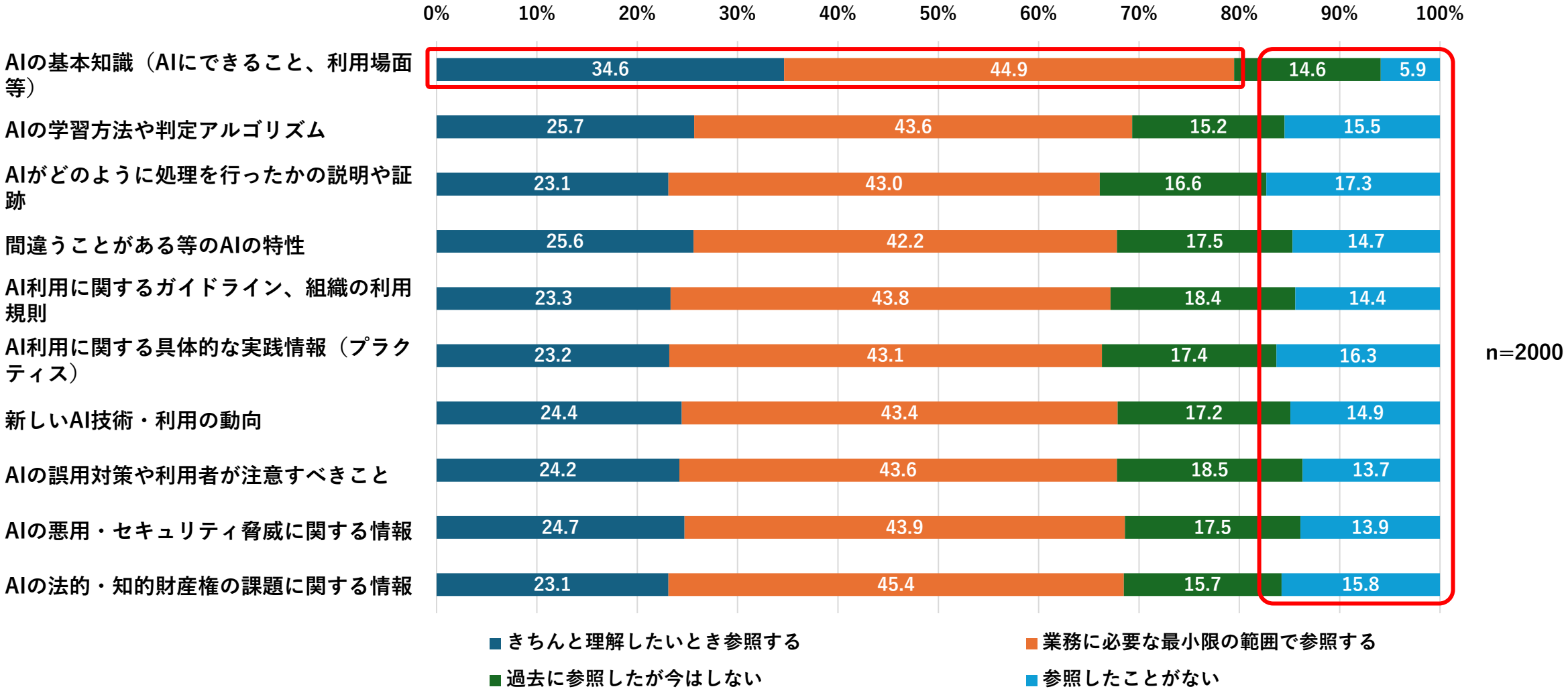


	n	毎日使う	週数日使う	月数日使う	過去に使ったことがある	使ったことがない	利用経験あり比率計
【大企業：製造業】20代	100	22.0	36.0	14.0	13.0	15.0	85.0
【大企業：製造業】30代	100	23.0	29.0	11.0	14.0	23.0	77.0
【大企業：製造業】40代	100	22.0	29.0	11.0	10.0	28.0	72.0
【大企業：製造業】50代	100	17.0	24.0	15.0	10.0	34.0	66.0
【大企業：製造業】60代	100	10.0	18.0	14.0	12.0	46.0	54.0
【大企業：非製造業】20代	100	26.0	29.0	17.0	11.0	17.0	83.0
【大企業：非製造業】30代	100	24.0	17.0	17.0	13.0	29.0	71.0
【大企業：非製造業】40代	100	21.0	23.0	13.0	7.0	36.0	64.0
【大企業：非製造業】50代	100	13.0	27.0	20.0	9.0	31.0	69.0
【大企業：非製造業】60代	100	19.0	19.0	19.0	7.0	36.0	64.0
【中小企業・自営業：製造業】20代	100	26.0	23.0	18.0	10.0	23.0	77.0
【中小企業・自営業：製造業】30代	100	18.0	27.0	18.0	8.0	29.0	71.0
【中小企業・自営業：製造業】40代	100	14.0	28.0	16.0	15.0	27.0	73.0
【中小企業・自営業：製造業】50代	100	17.0	21.0	14.0	12.0	36.0	64.0
【中小企業・自営業：製造業】60代	100	11.0	19.0	17.0	13.0	40.0	60.0
【中小企業・自営業：非製造業】20代	100	17.0	26.0	23.0	7.0	27.0	73.0
【中小企業・自営業：非製造業】30代	100	21.0	22.0	19.0	10.0	28.0	72.0
【中小企業・自営業：非製造業】40代	100	17.0	19.0	22.0	8.0	34.0	66.0
【中小企業・自営業：非製造業】50代	100	17.0	14.0	15.0	14.0	40.0	60.0
【中小企業・自営業：非製造業】60代	100	15.0	16.0	11.0	10.0	48.0	52.0

©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

3-2 業務利用のために参照したい情報

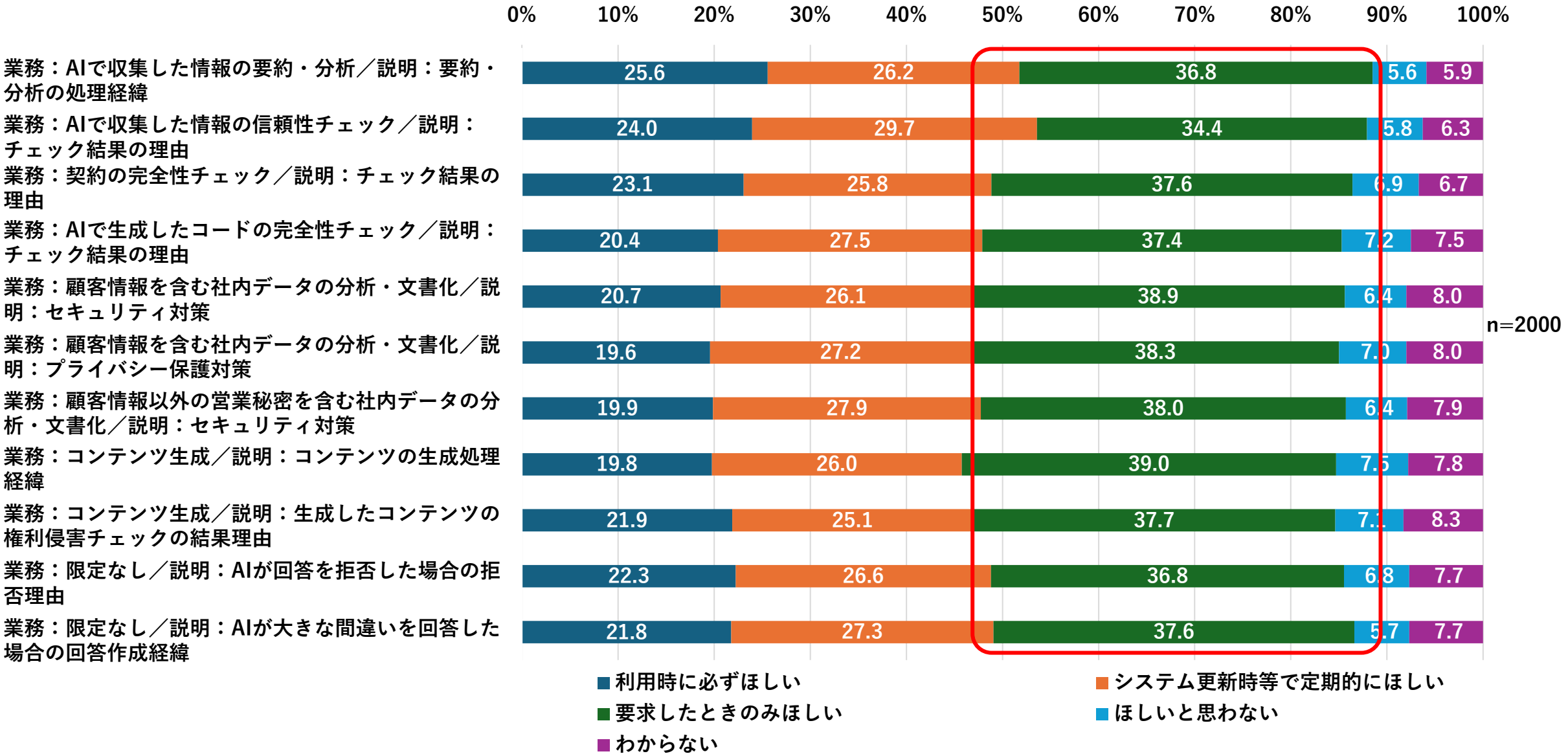
各項目について、もっともあてはまるものを１つだけ選んでください



©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

3-4 説明の頻度・タイミングに対する意識

以下の各説明をどのタイミング・頻度でほしいと思いますか。あてはまると思うものを１つだけ選んでください



©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

説明の頻度・タイミング：結果と分析

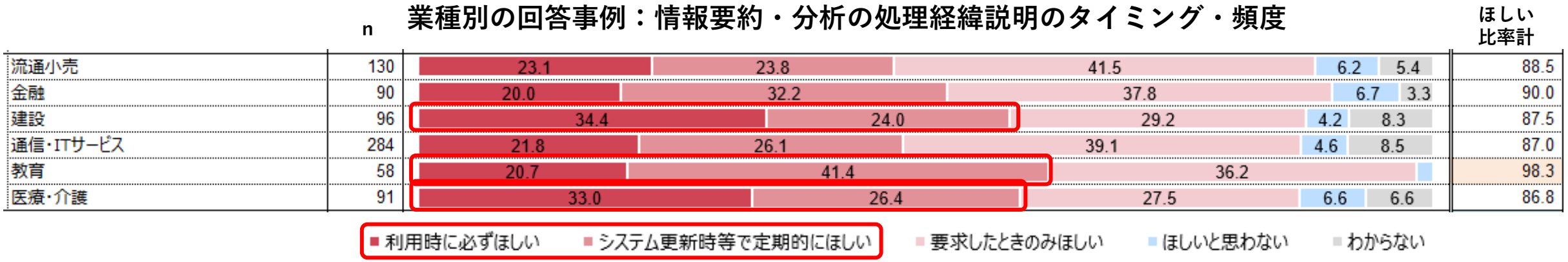
結果

　生成AIの具体ケースについて聞いたところ、ケースによらず「要求したときのみ（34～39%）」「定期的（25～30%）」「利用時毎回（20～26%）」の順。

分析

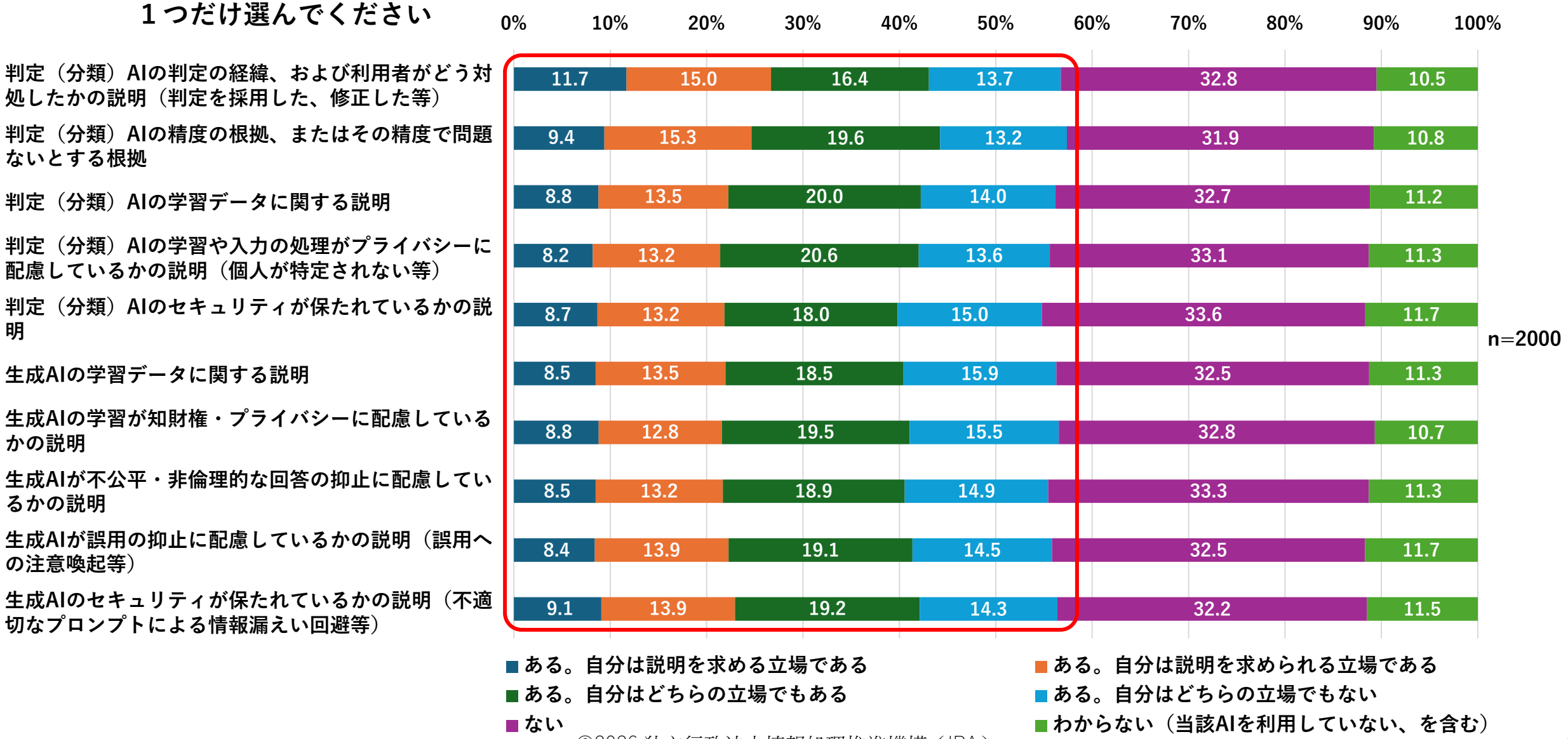
　セキュリティ・プライバシー対策に比べ、情報分析・信頼性の説明が高頻度で求められる。分析・信頼性チェックフローが未整備であることを反映した可能性

　業種別では「建設」「医療・介護」「教育」が高い頻度で説明を求める傾向



3-5 組織における関係者への説明

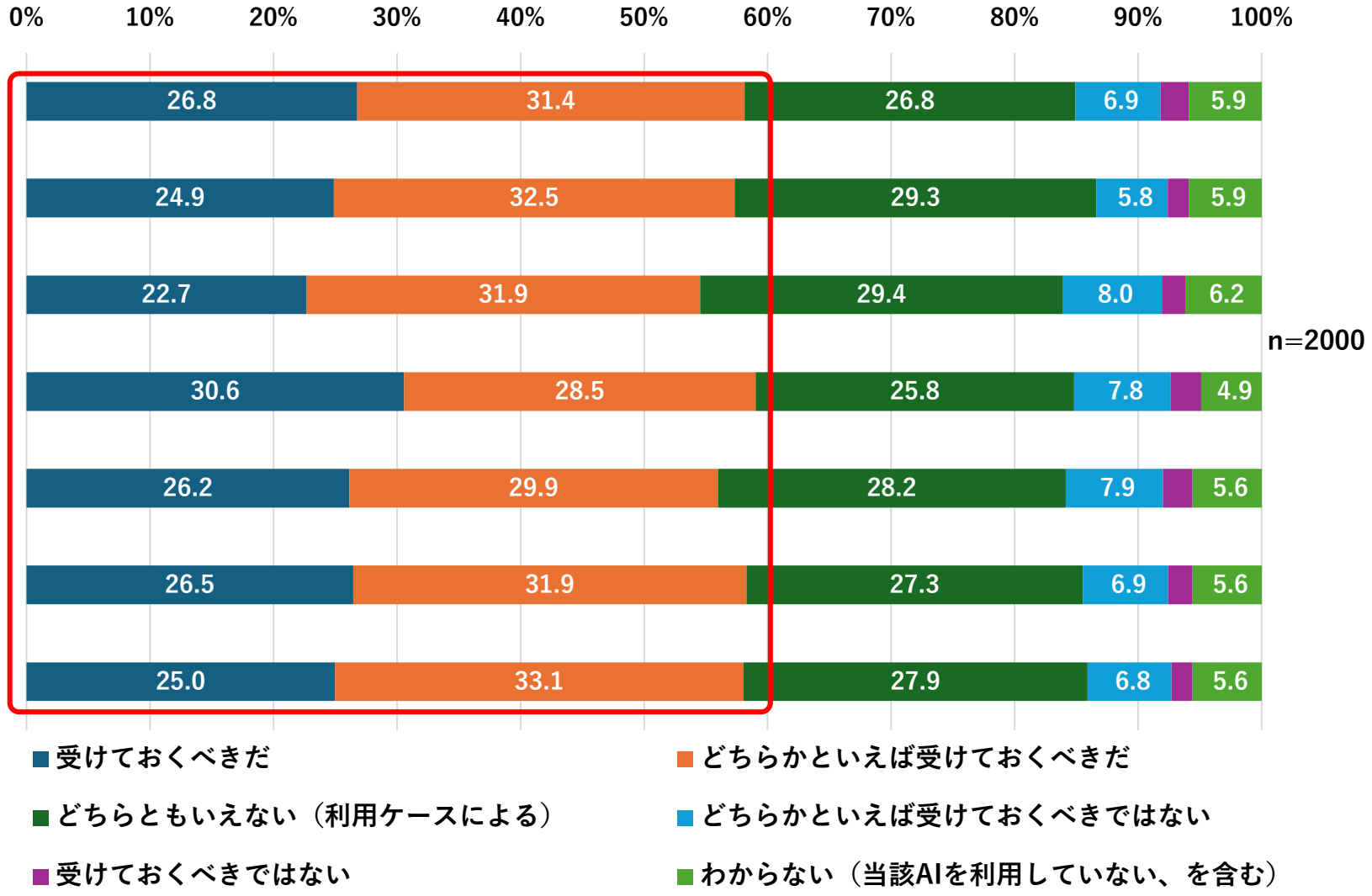
職場において、AIの説明を求めたり求められたりすることがありますか？各項目について、あてはまるものを１つだけ選んでください



©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

職場におけるリテラシー説明の認識

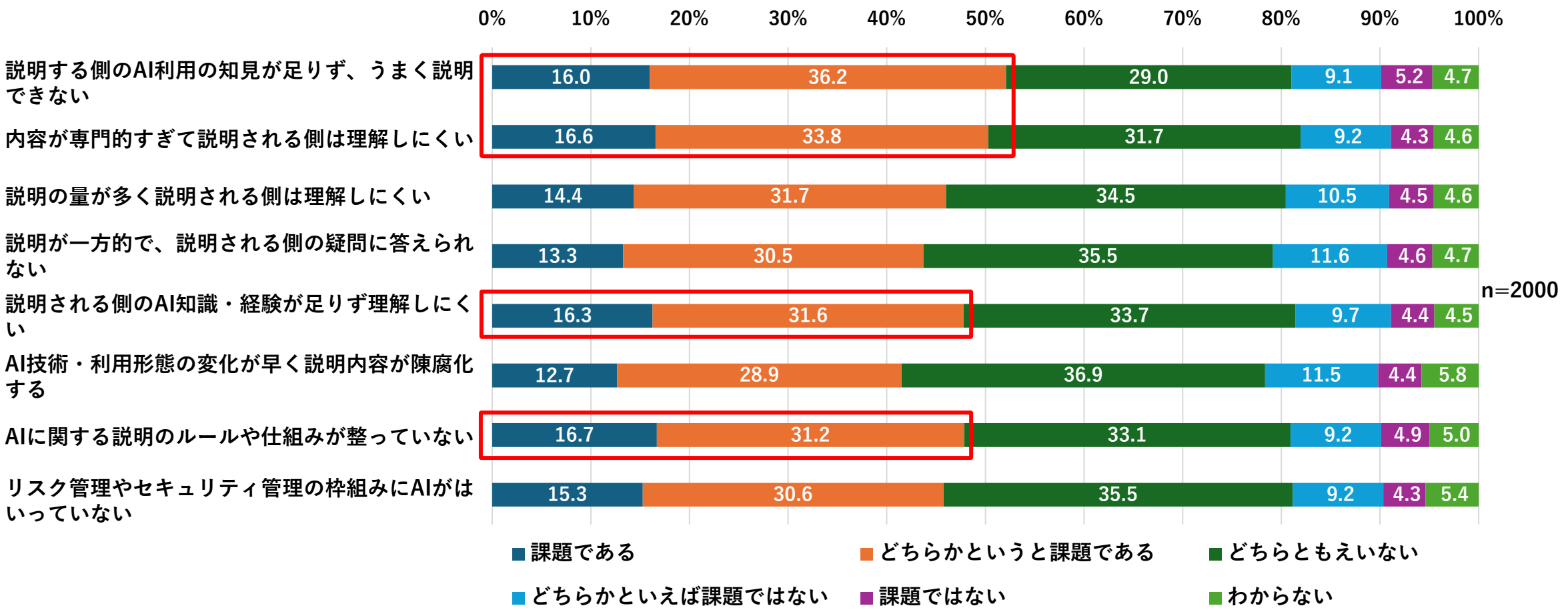
職場において、AI利用者は以下の説明をうけておくべきだと思いますか？もっともあてはまるものを１つだけ選んでください



©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

3-6 組織における説明の課題

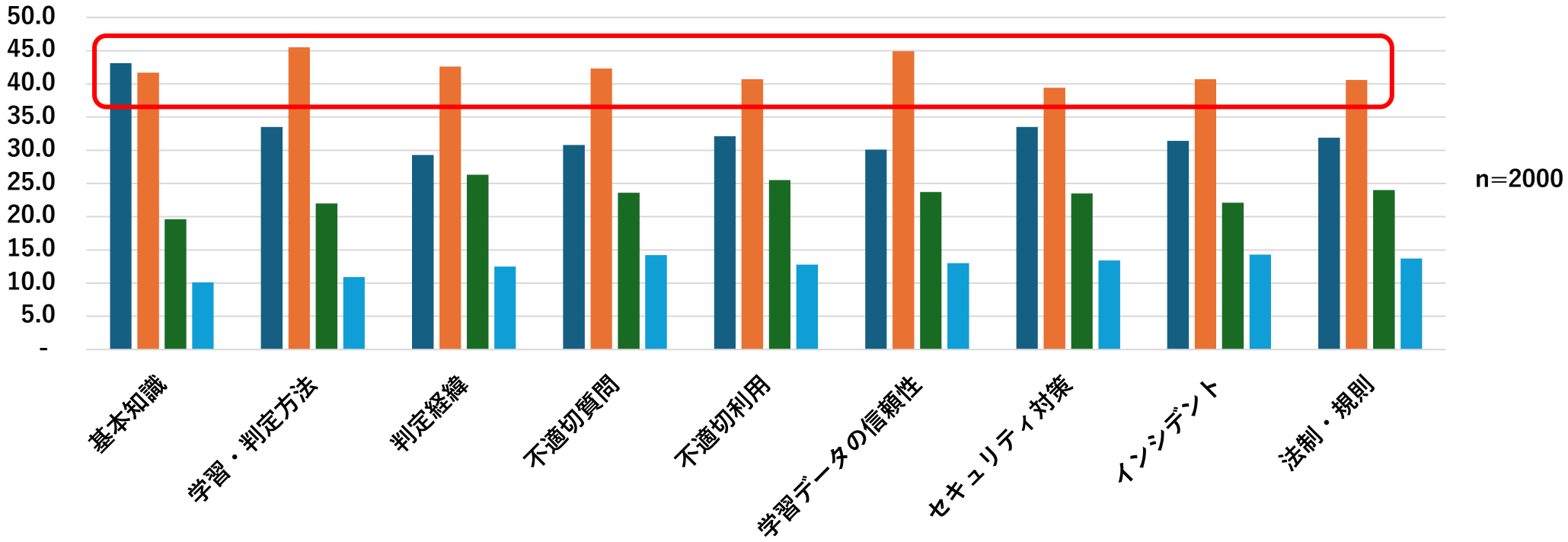
各項目について、あてはまるものを１つだけ選んでください



©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

3-8 説明の参照環境

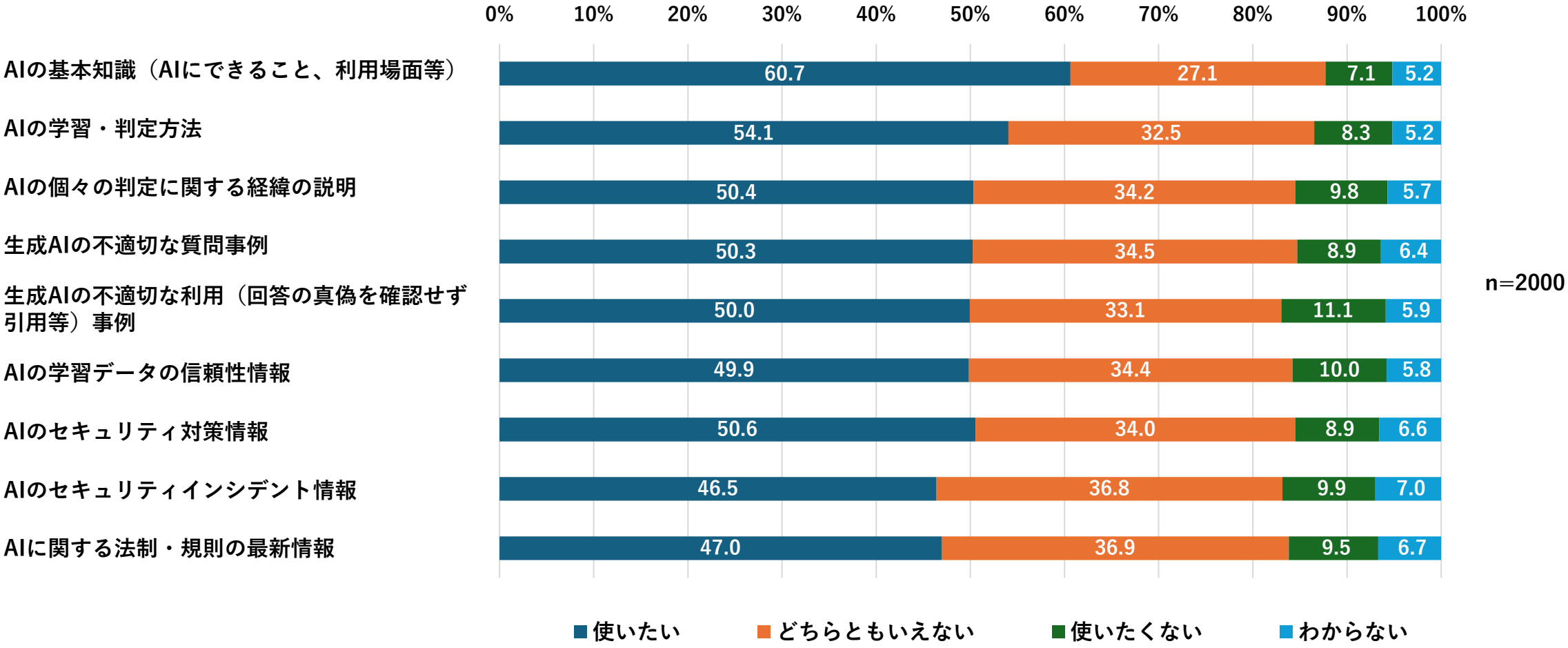
説明コンテンツはどのような環境で参照することが望ましいと感じますか？あてはまると思うものを選んでください（複数回答可）



©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

3-9 説明用生成AIへのニーズ

質問に応じて説明する説明用生成AIがあるとしたら、あなたは使いたいと思いますか？あてはまると思うものを１つだけ選んでください



©2026 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）